

InterRisk Thailand Flood Report <2022 No.02>

タイの洪水情報

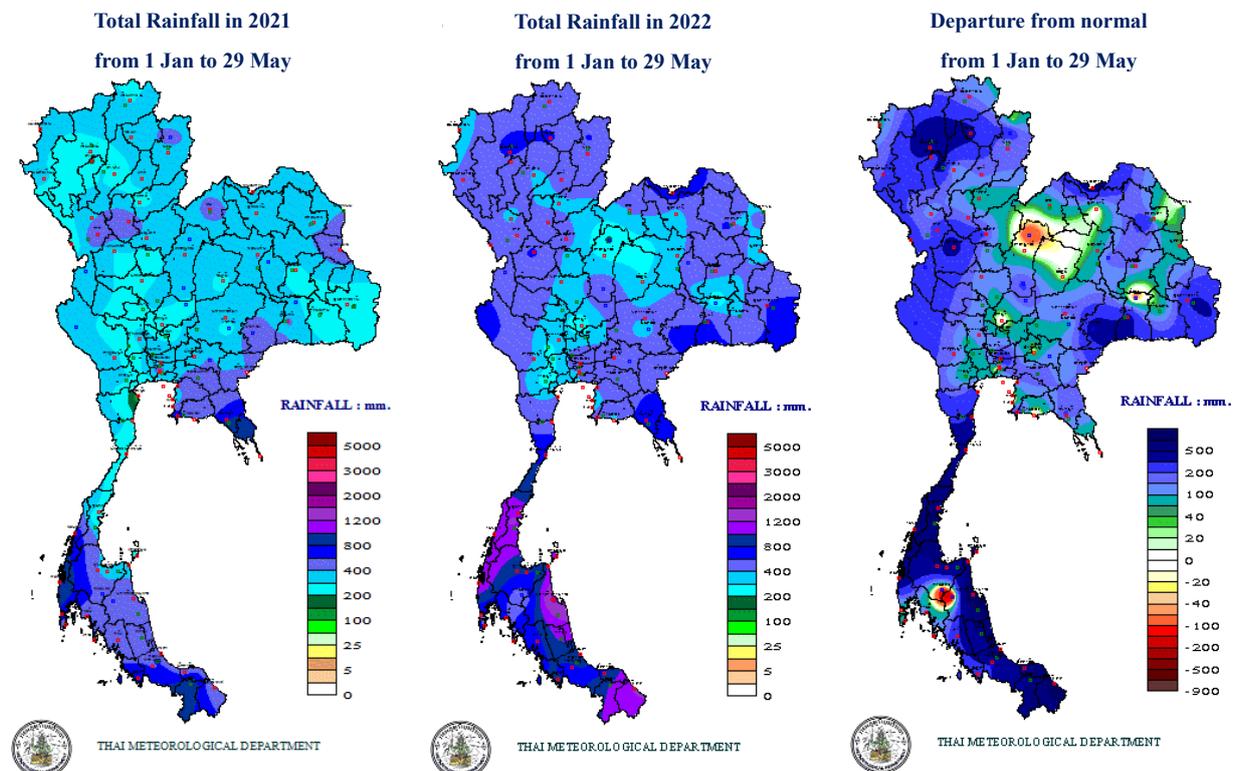
[概要]

- 5月下旬の降雨量は昨年と比較すると特に南部において多い傾向です。
- 6月前半は南西地域や東部地域沿岸を中心に多くの地域で雨が多くなる予想です。
- 6月の後半には南西モンスーンが弱まり、降雨が減少する傾向になります。
- チャオプラヤ川流域の主要ダムの貯水量は5月中旬に到来した雨季の影響により、5月上旬と比較するとやや増加しています。
- Yom川（チャオプラヤ川上流）の水位は5月初旬より高くなっています。しかし、チャオプラヤ川上流と下流の全体的な水位は平常時よりも低い状況になっており、洪水の危険はありません。

降雨量

下図はそれぞれ、（左）2021年1月1日～5月29日における累積降雨量、（中央）2022年1月1日～5月29日における累積降雨量、（右）2022年1月1日～5月29日における累積降雨量の平年（直近30年の平均降雨量）との差を示しています。

2021年と2022年の5月下旬までの累積降雨量を比較すると、2022年の累積降雨量は200 - 1200 mm になっており、全国的に2021年より多い傾向です。特に南部地域で顕著になっており、これはラニーニャ現象が原因と考えられます。平年と比較しても、特に南部および北部にて累積降雨量が多い地域が見られます。



天気予報

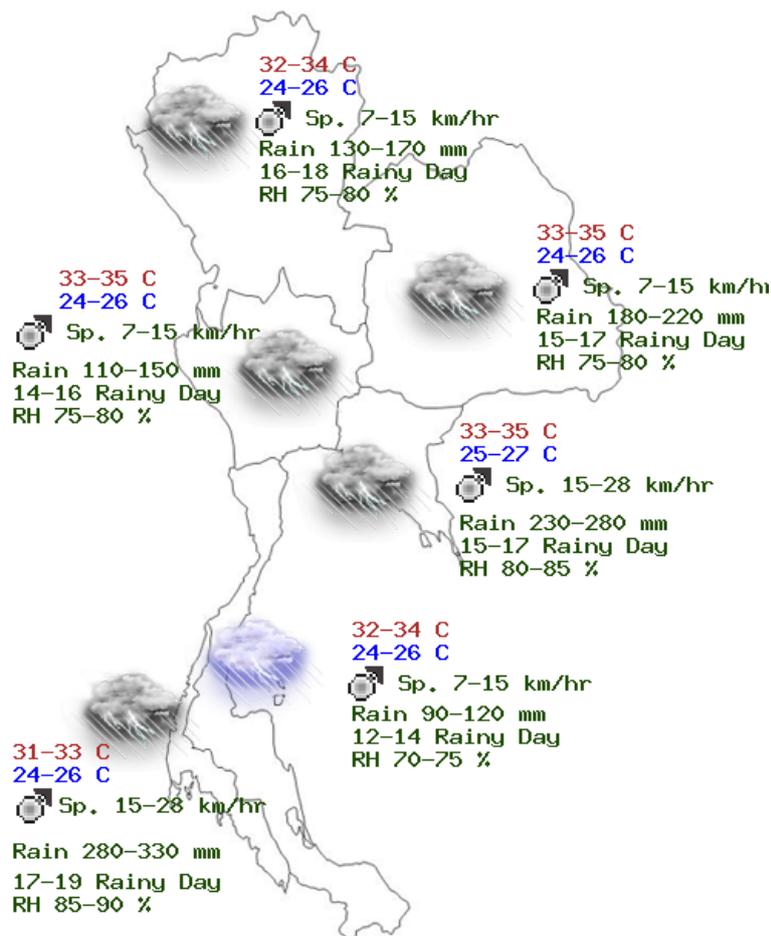
6月の各地域の降雨量と降雨日数の予測を下図に示します。タイ気象局の月間天気予報によれば、降雨は6月前半まで続き、降雨の範囲はタイ全土の約40～60%に及ぶ見込みで、地域によっては大雨になる日もあります。なかでも東部や南西部では降雨の範囲は約60～80%になる見込みで多くの地域で雨が降り、一部では大雨になる可能性があります。6月の前半に全国を覆っている南西モンスーン※1の威力が弱まるため、月の後半には降雨量や雨の範囲が減少する傾向があります。また、モンスーントラフ※2が一時的に北部や北東部に停滞し、月の後半には国の南部に沿って停滞する見込みです。

6月の降雨量予測では、北部地域の総降雨量は平年（過去30年間の平均値）並みになりますが、南部の総降雨量は平年より約10%少なくなる可能性があります。

6月は北太平洋の西地域から熱帯低気圧が発生し、フィリピンを通過して、南シナ海へ移動することが予想されます。そのため、タイ全土とアンダマン海を覆う南西モンスーンが強まり、特に南西地域や東部地域沿岸を中心に雨が多くなると予想され、注意が必要です。

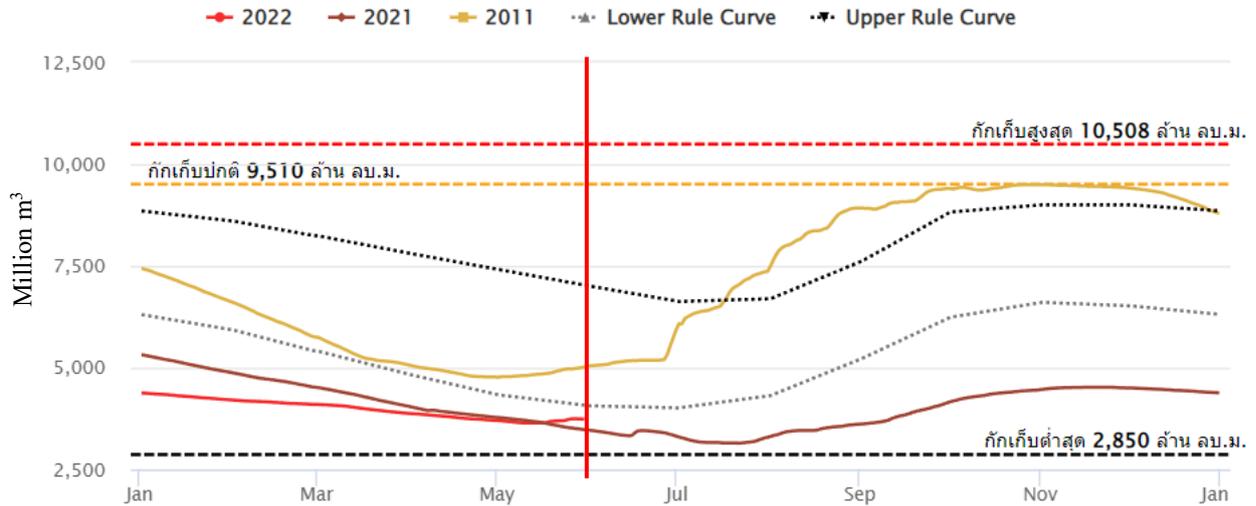
※1：モンスーン＝季節風（季節によって吹く方向が変化する風）。

※2：モンスーントラフは南北に移動する熱帯収束帯。熱帯収束帯では積乱雲が発達しやすく雨が降りやすい。

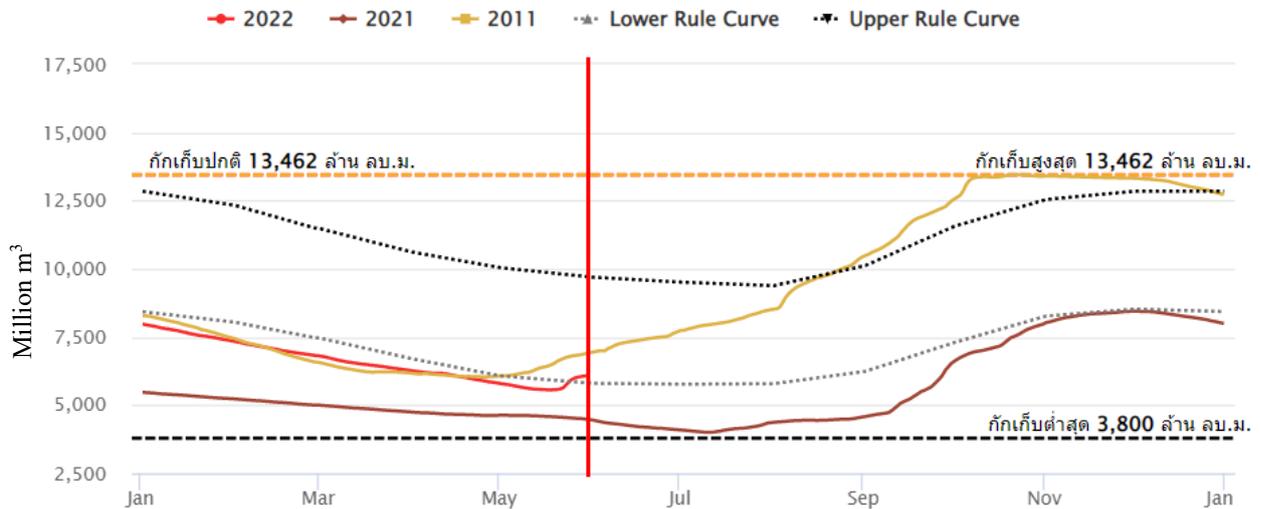


ダム貯水量 (Sirikit ダム、Bhumibol ダム)

貯水量：Sirikit ダム (貯水率 39%：2022 年 5 月 29 日時点)



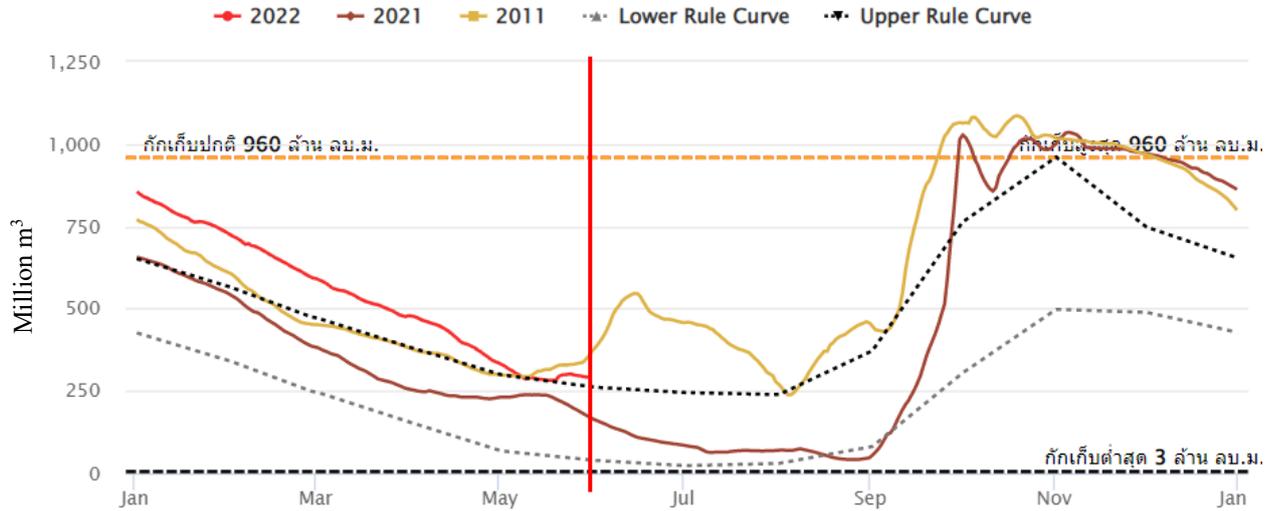
貯水量：Bhumibol ダム (貯水率 45%：2022 年 5 月 29 日時点)



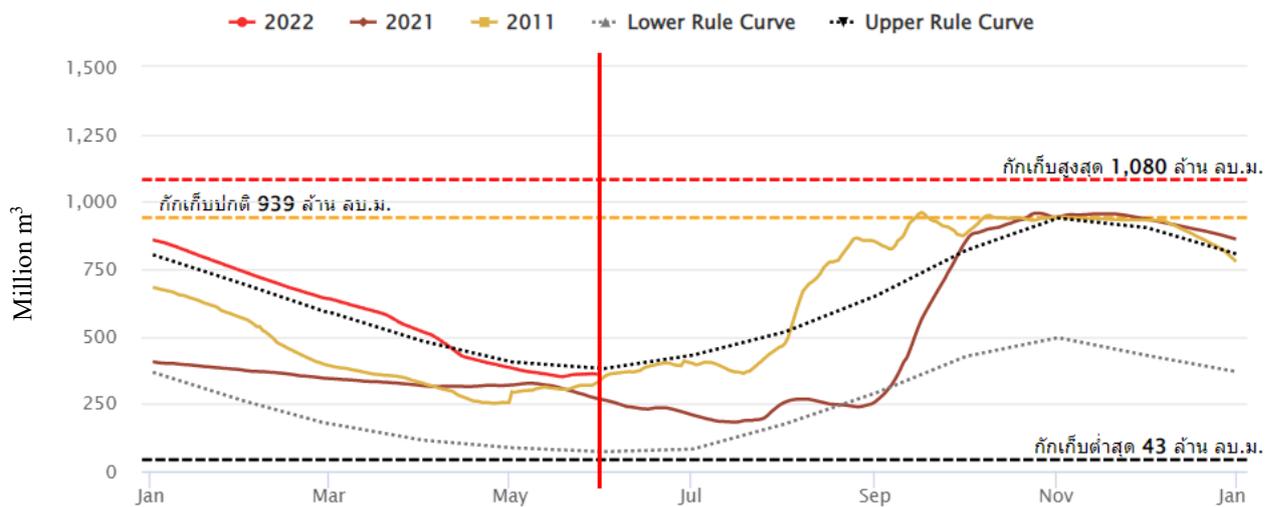
Sirikit ダムの貯水量は昨年と比較して年初は少なかったものの、5月29日時点では昨年より若干多くなっています。Bhumibol ダムの貯水量は北部の降雨量が多いため増加しており、昨年より高いレベルで推移しています。

ダム貯水量 (Pasak ダム、Kwaenoi ダム)

貯水量：Pasak ダム (貯水率 30%：2022 年 5 月 29 日時点)



貯水量：Kwaenoi ダム (貯水率 38%：2022 年 5 月 29 日時点)



Pasak ダムと Kwaenoi ダムの貯水量は年初と比較するとかなり減少していますが、貯水量は昨年よりやや多い状況です。

チャオプラヤ水系の河川水位 (チャオプラヤダム上流)

5月29日時点のYom川の水位は5月上旬より高くなっており、特にPhichit県の水位が高くなっています。Ping川、Wang川、Nan川は5月上旬とあまり水位が変化していません。チャオプラヤダム上流では川の水位は堤防より低くなっているため、洪水危険はありません。

チャオプラヤ水系の水位
2022年5月29日



【備考】

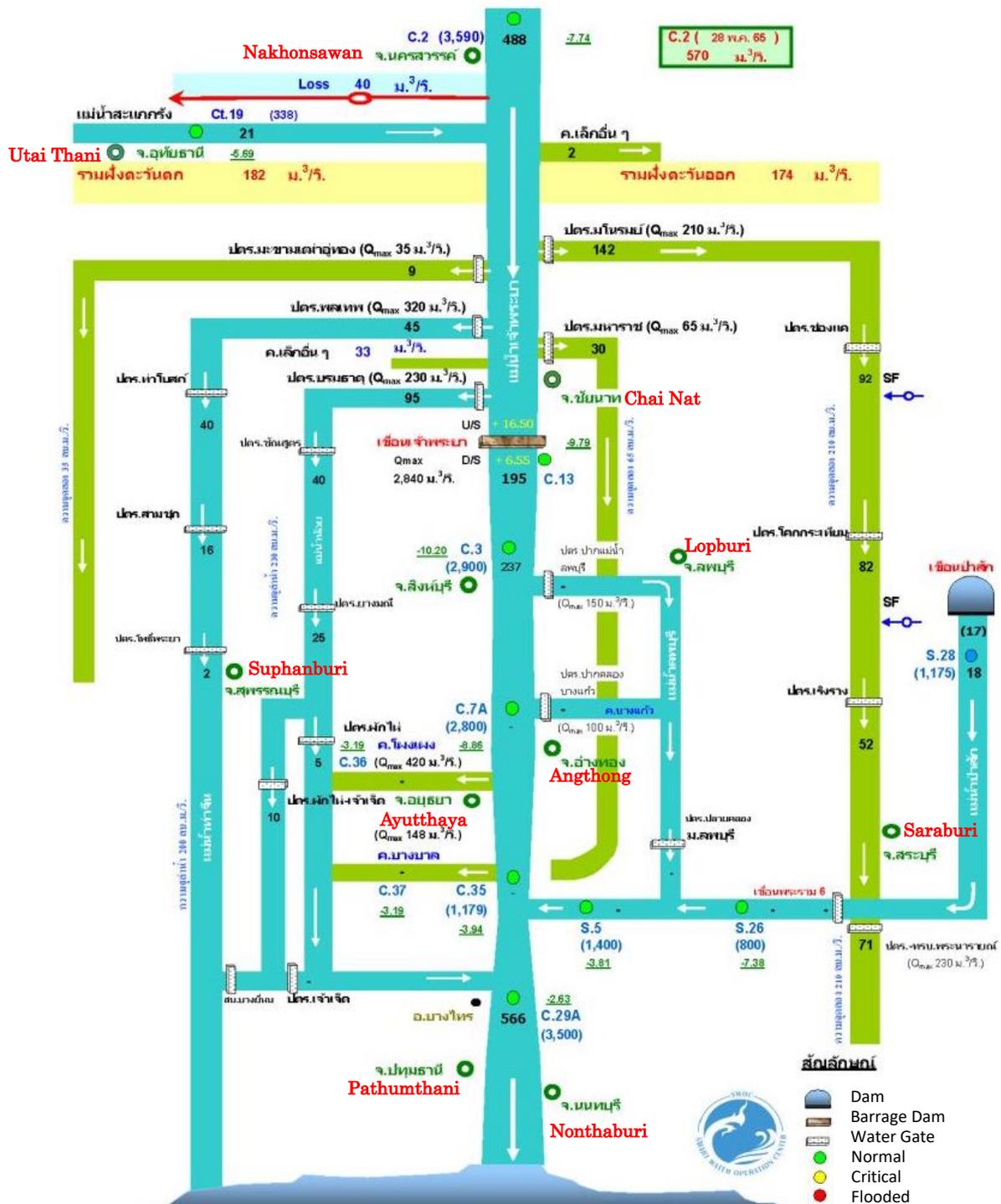
- ①河川の中に示されている黒文字の数値：河川流量 (m³/sec)
- ②緑文字・+ (プラス) - (マイナス) 付きの数値：堤防天端から河川水位までの距離 (0 になった場合、洪水が発生)
- ③水位レベルの U/S、D/S は m で表示されています。

チャオプラヤ水系の河川水位 (チャオプラヤダム下流)

5月29日時点のチャオプラヤダム下流の河川水位は5月初旬から大きな変化はなく、川の水位は堤防よりも低く、洪水危険はありません。

チャオプラヤ水系の水位

2022年5月29日



【備考】

- ① 河川の中に示されている黒文字の数値：河川流量 (m³/sec)
- ② カッコに示されている数値：河川流量 (m³/day)
- ③ 緑文字・+ (プラス) - (マイナス) 付きの数値：堤防天端から河川水位までの距離 (0 になった場合、洪水が発生)

参照

<http://www.arcims.tmd.go.th/dailydata/yearRain.php>

https://www.tmd.go.th/monthly_forecast.php

<https://www.thaiwater.net/water/dam/large>

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_up.php?cal2=29052022

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_low.php?cal2=29052022

MS&AD インターリスク総研株式会社は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントに関する調査研究およびコンサルティングを行う専門会社です。タイ進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等は、お近くの三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

MS&AD インターリスク総研(株) 総合管理部 国際業務グループ

TEL.03-5296-8920

<https://www.irric.co.jp/>

インターリスクアジアタイランドは、タイに設立された MS&AD インシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等における火災リスク調査や洪水リスク評価、ならびに交通リスク、サイバーリスク等に関する各種リスクコンサルティングサービスを提供しております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

InterRisk Asia(Thailand) Co., Ltd.

175 Sathorn City Tower, South Sathorn Road, Thungmahamek, Sathorn, Bangkok 10120, Thailand

TEL: +66-(0)-2679-5276

FAX: +66-(0)-2679-5278

<https://www.interriskthai.co.th/>

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。
また、本誌は、読者の方々に対して企業の CSR 活動等に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製 / Copyright MS&AD インターリスク総研株式会社 2022